

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく…」 「これまでの生活に近い環境を…」などを盛り込んで独自の理念を作っている。	○	法改正後、見直しを行っていないので、現在実践していることも踏まえて、特に地域との関わりを盛り込んだ新しい理念を、スタッフ皆で考えていく予定である。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議で理念に基づいての自己評価を行い、また日々の申し送りやミーティングの際も振り返りをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月の家族・地域に向けたおたよりや運営推進会議、ご家族の訪問時、ケアプラン作成時など、折にふれて説明している。また、年1回ひなたぼっこ祭りを実施し、グループホームの役割などの理解を深めてもらっている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	月1回地域版のお便りを回覧し、ホームの日常を知ってもらい、また散歩や小さい買い物は近所へ出かけ、挨拶以上の会話を心がけている。最近では野菜をいただいたり、声をかけていただくことも増えている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や盆踊り、お祭りなどに出かけたり、資源ごみの収集、地域環境整備、自治会集会、新年会など可能な限り参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>年1回のひなたぼっこ祭りを通して、認知症の理解を深める取り組みをしている。また、運営推進会議など、機会あるごとに取り組みのはたらきかけを行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員で自己評価を行うことでケアの振り返りができ、サービス向上の良い機会ととらえている。外部評価の結果は、改善に向けて話し合っている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において、ホームでの日常の様子や取り組みなどの報告を行うと共に、いただいた意見や提案は職員間で検討し、ケアに活かしている。徘徊や、緊急避難の際の応援態勢もできつつある。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>本社介護事業部部長を通じて連携をとっている。また、緊急避難時の応援要請なども行っている。認知症高齢者ネットワーク会議、市虐待防止ガイドライン作りの会などにも参加している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在地域権利擁護事業を利用している入居者がおられ、担当者と連携をとり、スムーズに運用しているよう協力している。 本社部長より少しずつ指導を受けているが全職員での学びの場は設けていない。</p>		<p>地域権利擁護事業、成年後見制度共にスタッフ全員が理解できるように、今後も勉強会、研修などを通して理解を深めていきたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ひなたぼっこ独自の虐待防止マニュアルに基づいて、研修の受講、年2回の自己チェック、職員間での話し合いなどの機会を設け、虐待防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用料金、看取りや重度化に対する対応、契約解除の際の取り決めなど、丁寧に説明し、同意を得た上で契約している。また、退居に際しても十分に話し合い不安解消に努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の言動から利用者の思いを汲み取る努力をしている。また折にふれて、言葉に出していただけるように話し合っている。家族の面会時に家族の方から利用者の気持ちを代弁していただけるような関係を作れるよう努力している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のお便りで、担当スタッフより現在の状況を報告し、面会時や、その他必要があれば電話などで個々に合わせた報告をしている。金銭管理については毎月の請求書などと一緒に本社介護事業部で確実に報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回の家族アンケート、家族会での話し合い、面会時、ケアプラン作成時など、意見や要望を聞く機会を設け、ミーティングで話し合っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のスタッフ会議、月1回の勉強会、日々のミーティングの際に意見交換している。月1回のホーム長会議には本社の上司も出席し、直接ホーム長がスタッフの意見を言っている。社長も月一回はホームに来てスタッフとコミュニケーションをとっている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況に合わせた対応ができるよう、緊急時の残業、業務の変更など、日ごろから職員間でコミュニケーションをとり、柔軟な対応ができるよう努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職は極力避け、やむを得ない場合は、他の職員の連携によりダメージを防ぐよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修に、できるだけ多くの職員が参加し、スタッフ会議での発表、研修報告書の提出、意見交換などを行っている。新人研修、夜勤者会議、合同研修なども行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>本社介護事業部長により、市内のグループホーム管理者の会合を定期的で開催し、毎月1回内容の伝達を受け質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>○ 今後、他法人のグループホームとの職員交流をする予定。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて個別の面談をしたり、親睦会を開催したりして、ストレスの軽減に努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、職員個々の特性や、悩み、能力を把握しており、その時々適切なアドバイスや指導をしている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前訪問をし、家族、本人と話し合い、体験入居を経たうえで利用に至っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>自宅に出向いたり、ホームを見学してもらったりなど場所を考えたり、遠方の方の場合は日時を合わせたりしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時の情報から、緊急性のある場合は他施設を紹介したり、介護保険全般の説明や、他のケアマネジャーとも連携をとり対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に見学してもらい、体験入居を経て、本人の了解を得たうえで入居を決めている。やむを得ず入居に至った場合、頻回に面会してもらうなどの協力を要請し関係作りに努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意分野での力が発揮できたり、共に笑い、楽しめる場面設定を心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、必要な協力が得られ、共に支えあう仲間としての信頼関係を築くよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い、家族の思い、過去の歴史などを傾聴し、関係修復や、より良い関係の継続に配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用していた美容院へ行ったり、近所や施設入所の友人を訪ねたりして、関係を継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係により、食事の席を変更したり、仲の良い人と共に行動する機会を作ったり、仲の悪い人の場合はさりげなく間に入るなどの配慮をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後に積極的に訪問はしていないが、受け入れる体制はできている。退居後、再入居に至ったケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで、一人ひとりの思いや願いを、本人の口から聞くことを基本としている。言えない方は、職員や家族間で情報交換し、推し量るよう努めている。	○	センター方式をよりよく活用できるように、研修を深めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの過程において、また、入居後も、本人、家族から折にふれて話を聞いている。	○	同上
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、できることがいつまでもできるよう、有する力を見逃さないよう、気づきを大切に、記録に残すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族より、常日頃から意見や要望、思いを聞くように努めている。介護計画作成時は、ご家族を交えて作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状態など、状況の変化があればできるだけ速やかに介護計画の変更ができるようにご家族とも連絡を取り合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や実践・結果は個別記録に記入し、申し送りや伝達ノート・カンファレンスノートなどを活用し、情報を共有すると共に、介護計画に反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要な医療処置が受けられるような支援、通院支援など、ご家族と連携のもとで行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議をきっかけに、民生委員・警察とも協力関係ができつつある。消防署は近くに位置していることもあり協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要であれば他のサービスを利用することもあり得るが、地域行事、地域団体(保育所、学校、老人会など)と平素から交流があり、現在特に必要性を感じていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	当該地区の地域包括支援センター自体が、十分に機能発揮されておらず、今後に期待しているところである。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医による往診・受診を基本としている。他の医療機関を受診する際も、ご本人、ご家族の希望される医療機関を受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医の診断、治療、相談を受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、健康管理、状態の変化に気を配り、必要と判断すれば早期に医療機関への受診をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師や、看護職員との情報交換をし、職員が他の入居者と共に面会することで、ダメージが少なくなるよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、早い段階からご家族の意向を聞き、介護計画作成の折に確認し、かかりつけ医との連携の下にその時々状況に応じて可能な限りの対応をしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人・ご家族の意向をもとに、かかりつけ医と連携し終末期が迎えられるよう支援している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別な居所へ移り住む場合は、ご本人に関する情報を可能な範囲で提供している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	意識せずかけた言葉が誇りやプライバシーを損ねる声かけであったことに気づき、反省することがある。それを毎月の職員会議で確認し、スタッフ全員で共有するようにしている。入社時に、守秘義務・個人情報保護の誓約をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常のいろいろな場面(お茶・食事メニュー・入浴など)で本人に決めてもらうように心がけているし、自主的に行動される場面も増えている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑仕事、草むしり、買い物、午睡、おしゃべりなど、一人ひとりが自分のペースで過ごされるように配慮している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えや洋服選びは、必要な人には見守りや支援をしている。美容院は、利用前からの行きつけの所へ行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物をしながら献立を考えたり、調理、盛り付け、配膳、片付けは一人ひとりの持てる力を発揮してもらい、一緒に食べている。季節に応じて皆で弁当を作って出かけたり、外で食べたりすることもある。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	そのとき飲みたいものが飲めるように、いろいろなものを準備している。タバコは本人と相談して、職員が預かり、他者の迷惑にならないで吸えるよう配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、声かけやトイレ誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴も取り入れ、毎日入浴する人、1日おきの人と、本人の希望を主体に支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間眠れない時は、ホットミルクなどを一緒に飲んだり、しばらく話をしたりし、日中の過ごし方を検討し個々の状態に合わせて対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の得意分野を把握し、家事が得意な人や、楽しみごとが得意な人等、それぞれの持てる力を発揮してもらっている。また、好きなことなのか、生きる力につながる事なのか、人権に配慮したことなのかなどの勉強会を繰り返し、支援につなげている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や受診時の支払いなど、本人がお金を持っていない人には事前に手渡し、自分で支払ってもらっている。自己管理できる人は本人の希望で買物をしたり支払いをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に行きたい人、友人に会いたい人など、本人の希望に添えるようにしている。地域の行事にも可能な限り参加し、天気の良い日は散歩や、外で過ごす時間を持つようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1～2ヶ月に1度は遠くへお弁当持参で出かけている。数人でドライブや、神社参詣などしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状はほんのわずかでも自筆で書いてもらっている。電話をかけたい人には本人にあったサポートで、かけてもらっている。</p>	
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時間の制限はしていない。早朝出勤前に立ち寄られる方もおられる。宿泊もできるので一緒に入浴したり、宿泊されることもある。</p>	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員会議で身体拘束に関する勉強会を行い、弊害についても理解している。</p>	
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>基本的には玄関も居室も鍵をかけていない。入居者の状況や、やむを得ないホームの都合によって施錠せざるを得ないこともあるが、一人ひとりの状況を職員同士で情報共有し、外出しそうな様子がうかがえるときは常に居場所を把握しさりげなく声を掛け合っている。</p>	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>昼夜共に見守りやすい位置にいる。日中は声をかけたり、居室で一緒に過ごしたり、夜間は時間ごとに様子を確認している。</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>その時々利用者の状況や、物により、カーテンで目隠しをしたり、戸棚の中にしまったり、あるいは見えないところへ保管したり、危険な兆候が見えたらすぐ対策を立てている。</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>定期的に事故防止マニュアルの読み合わせをして意識付けを行っている。ヒヤリハットの報告があった場合は全職員で原因を探り、対策を立て、今後の事故防止に役立てている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	2年に1回の救急救命法の学習は全職員が受けている。しかし、実際緊急事態が発生した場合に全職員が落ち着いて行動できるだけの自信はない。	○	あらゆる状況を想定して、きめ細かな訓練をして重ねる必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1～2回消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方などの訓練を3ヶ月に1度避難訓練をしている。その際は地域の方の協力も得て、一緒に行っている。緊急連絡網にも上げている。	○	地震、風水害への対策は未整備だったので、地域包括支援センターと共に作成中である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	いきいきと暮らすことと、それに伴うリスクの可能性について折にふれて家族と話し合い、理解を得ると共に、危険を未然に防ぐ配慮をしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで異常があれば再測定、様子観察をし、必要と認めれば医療受診へつなげている。日々の体調も気づきを大切にして職員間で情報を共有し、早期の対応を心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の個別リストを利用し、職員全員がすぐにわかるようにしている。服薬時は、本人に手渡し、服用できているか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘対策として、腹部マッサージ、軽い運動、散歩、水分摂取、オリゴ糖の使用、イモ類や繊維質の多用など、個々の状態に合わせて工夫している。下剤の使用は最小限にとどめている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの生活習慣も考慮に入れ、必要な人には見守りや声かけで、毎食後の歯磨きや義歯洗浄、自力でできない人には口腔清拭をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厳密なカロリー計算まではしていないが、食事量、水分量共に毎日チェックし記録している。本人の好み、季節のものを取り入れ、嫌いなものがあるときは、別メニューにするなど、不足がないよう心がけている。咀嚼の状態により、刻み、ミキサー食や、とろみをつけて飲み込みやすくするなど工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し、全職員で学習している。インフルエンザの予防接種も、ご家族の協力、同意をいただき、全員に行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は毎日漂白し、清潔に留意している。冷蔵庫内は夜勤者が点検し、鮮度の点検をしている。残り物を出さないよう心がけている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭に縁台を置き、玄関周りには花を植え、入り口付近にも椅子やベンチを配置し、冬季以外は玄関ドアを開放して入りやすい工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や夕方の遮光は特に注意し、五感への働きかけ(調理のにおい・虫の声・つばめの巣作り・花の咲き具合など)は意識して行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室・廊下・玄関先など、至るところに椅子やベンチ、ソファを置き、仲の良い人同士で過ごせるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ひとりひとりが無理のない程度の役割を持ち、一日の中で楽しいとき、うれしいと感じる時を少しでも多く持てるように、年長者に対する敬意の念をもって接し、人生の最後の部分で、ここに来てよかったと思っただけの事業所にしたいと、日々努力しています。